
教員間の連携で学生も教員も win-win に

科目名：線形代数学・同演習 A

担当教員：落合啓之 教授

(マス・フォア・インダストリ研究所)

形式：オンデマンド型

学年：基幹教育科目

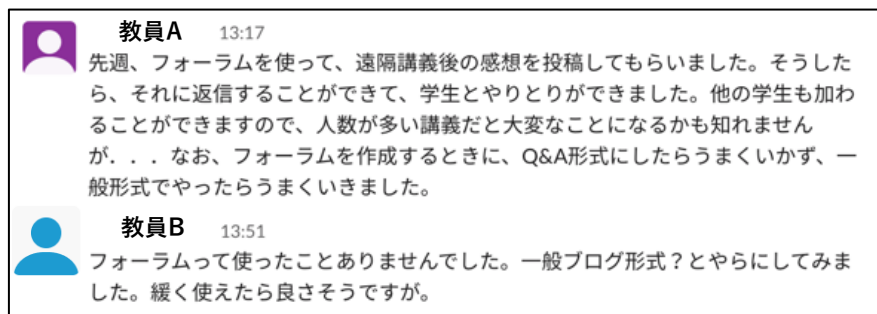
人数：55 人

ツール：Teams

評価方法：Moodle でのテスト

Q1. この授業で取り入れられた工夫について、改めて具体的に教えてください

この授業の中で何か工夫をしたというよりも、他の教員と連携しつつ、この授業自体を作り上げました。例えば、リアルタイム形式で実施した廣島先生（廣島先生の記事を参照ください）と同じ学生を受け持つ私の授業では、オンデマンド形式を取り入れ、wi-fi 環境の悪い学生でも最低でもどちらかの授業は問題なく受講できるように配慮しました。また、学生に忙しさを尋ねることで、他の授業で課題が忙しい時には私の授業では課題を無しにして、翌週課題を出すなど、学生の負担にも配慮しました。こうすることで、学生にも過度な負担がなく、また、教員の側としても質の高い解答を受け取れるという点で、双方にメリットがあったように思います。



教員間でのやりとりの様子 (Slack)

Q2. 取り入れた結果、学生の反応はどうでしたか

オンライン授業をやってみて初めて、これまでは学生の忙しさを彼らの様子から読み取っていたことに気づきました。今回学生と授業内で色々質問したりされたりするうちに、学生は次第に授業内容に止まらず、大学生活での疑問等も質問してくれるようになりました。

Q3. 取り入れるために必要な準備

教員間での調整は、今回は一部の先生がオンライン授業の実施に向けて先に立ち上がってくださったおかげという部分が大きいです。また、連携した教員同士で元々良い関係が作れていたこともあり、個人的には楽しみながらオンライン授業を実施することができました。

～インタビュー雑感～

急遽オンライン授業が実施されることになった春学期以降、オンライン授業で学生が課される課題の多さは大きな問題でした。落合先生の実践は、教員間で連携しつつ、学生とも相談しつつ、ご自身は調整役をこなすことでこうした学生の負担の軽減を試みた実践であり、私自身大変勉強になりました。また、日頃から周囲の教員と信頼関係を築けていたことの重要性も改めて認識できました。
